

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
総務省技術基準適合品

DJ-CH272

簡易取扱説明書





【重要】

本書の注意書きは使用者が安全にご使用になるためのものです。管理者が遵守すべき内容は一部含まれていません。管理者は必ず弊社HPの詳細取扱説明書の注意書きもお読みください。

ALINCO

アルインコ株式会社 電子事業部

〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL06-7636-2361

無線・電源 機器のアフターサービスに関するお問い合わせは

お買い上げの販売店またはフリーダイヤル ☎ 0120-464-007

全国どこからでも無料でお客様のご相談窓口につながります。

受付時間：月曜 ～ 金曜 AM10 - 12 / PM 1 - 5 (土日祝日と休業日を除く)

お問い合わせフォーム：「アルインコ 電子 お問い合わせ」で検索してください

Copyright Alinco,Inc. Printed in China.

使用上のご注意 (必ずお読みください)

■ご使用環境・条件

- 本機を人命救助などの目的で使用して、万一、故障、誤動作などが原因で人命が失われることがあっても、製造元及び販売元はその責任を負うものではありません。
- 本機はIP54相当の防塵・防沫性能がありますが、ゴムキャップや電池フタをきちんと閉じていないとその性能を保証できません。また完全防水構造ではありませんので水没、流水での洗浄などは絶対におやめください。ぬれた後は乾いた布で手早く拭き取り、電池を抜いて内部をよく乾燥させてください。防水に使われているゴムキャップなどは経年劣化が生じ、防水性が失われることがあります。弊社では防水性についても製品と同じ保証期間です、ご了承ください。
- 航空機内、空港敷地内、公共交通機関内、医療・高齢者施設など無線機器の使用が制限される場所では事前に管理者の許可を得てください。
- 直射日光の当たる場所や空調機、火の近くなど、温度が高くなる場所には置かないでください。破裂、火災、故障、やけどの原因になります。真冬でも閉め切った車内や窓際では、日光が当たると本機の表面は電池の破裂につながる温度まで上昇します。
- 雷が鳴りだしたら屋外での使用時は直ちに屋内、車内など安全な場所に避難し、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。火災、感電、故障の原因となります。
- 運転中に本機を手に持って操作しないでください。運転中の携帯電話使用と同様に罰せられます。
- 付属品及び弊社指定のオプション品以外のものを接続して使用しないでください。故障の原因になります。
- 本機の定格温度は必ず守ってご使用ください。定格外の温度範囲で使用した場合、火災、発熱、故障の原因になります。
- ペットや小さいお子様の手が届かない場所で使用、保管してください。感電やけがの原因になります。
- 電化製品の近くで使うと電波障害を与えたり受けたりすることがあります。原因となる機器から離れてお使いください。

■電波法上のご注意

◎本機は電波法に基づいて技術適合証明(工事設計認証)を受けた製品で右記の「技適マーク」が印字されています。分解しないでください。改造して使うと罰せられます。



- ◎本機に貼付されたラベル類は重要です。次のことにご注意ください。
 - 機種名、数字が書かれたラベル類は一切絶対に剥がしたり、他のシールなどで隠したり、張り替えたりしないでください。
 - ラベル類が隠れるように他のシールやステッカーが貼り付けられていたら、修理の際に弊社サービスセンターで破棄させていただきます。ラベル類の印字が薄れたきたらお買い上げいただいた販売店が弊社サービスセンターにご相談ください。
 - ラベル類が意図的に手を加えてであると判断した場合、修理をお断りすることがございます。不法無線局開設の助到に該当するためですのでご了承ください。
- ◎他人の通信を妨害したり、知りえた内容を通信者の許可なく第三者に伝えたり、自身で利用したり、メディアに公用したりすると罰せられます。

- ◎使用できるのは日本国内に限られています。
- ◎心臓ペースメーカーを使用している人の近くで本機を使用しないでください。電磁妨害により機器が誤作動すると、人命に関わります。

■トランシーバー本体の取扱いについて

- 本機は調整済みです。ユーザーが改造、仕様変更することは法律で禁止されています。
- 本機の秘話機能は第三者に通信内容が聞かれる可能性を低くするものであり、無線の性質上、通信の秘匿を保証するものではありません。
- 引火性ガスが発生する場所では使用しないでください。爆発、火災、感電、故障の原因となります。本機は防爆仕様ではありません。
- 発煙、異臭、異音、発熱などの異常が起きたらすぐに本機の電源を切り、バッテリーパックを取り外してください。充電器をご使用の場合は、ACアダプターをACコンセントから抜いてください。異常がおさったことを確認した後、販売店や弊社サービスセンターにご連絡ください。
- 水などでぬれやすい場所では使用しないでください。火災、感電、故障の原因となります。
- 長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず本体の電源を切って電池を取り出し、充電スタンドをご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。
- 大きな音で長時間使用しないでください。耳に聴覚障害を与える原因になります。
- 本機を落としたり、壁に当てたりしないでください。無理な力が加わり破損し発火、発熱、故障の原因になります。
- スポンなどのポケットに入れたまま椅子などに座らないでください。無理な力が加わり、けが、故障の原因になります。
- 内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚に障害を起こす原因になります。

■充電スタンドの取扱いについて

- 充電スタンドに水を入れたり、ぬらしたりしないでください。火災、発熱、感電、故障の原因となります。
- 指定以外の電圧で使用しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- 定格外の温度範囲で使用しないでください。火災、発熱、故障の原因になります。
- 充電スタンドの近くに可燃物を置かないでください。火災、故障の原因になります。

■通信距離の目安(ロングアンテナにて)

- 通信できる距離は周囲の状況によって大きく異なります。
- 河原など障害物のない平地：500m～1km程度
- 見晴らしのよい道、郊外の住宅地：500m程度
- 市街地のような障害物の多いところ：200m程度

ショートアンテナやミドルアンテナでの通信距離は上記目安よりも短くなります。

注意

- 建物内の縦階層間の通信はフロアが障害物になるため、直進では数十メートルの近距離であっても通信できないことがあります。このような場合は中継器を設置することで通話エリアを広げることができます。
- 人体を含む障害物やアンテナの向き、歩くなど移動による影響を受けると、通信距離は半分程度まで短くなることがあります。
- トンネルのような閉鎖空間ではUHF電波伝播の特性により近距離でも通信できないことがあります。

■保守・点検

- 本体や充電器のケースは開けないでください。けが、感電、故障の原因となります。分解しないと交換できない部品は販売できません。内部の点検、修理はお買い上げの販売店または弊社サービスセンターにご相談ください。
- お手入れの際は安全のため必ず本体の電源を切って電池を取り外し、充電器をご使用の場合はACアダプターをACコンセントから抜いてください。
- 汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。パソコンやデジカメのようなAV機器を清掃するために市販されているクリーニング用具が最適です。
- ベンジン、シンナー、洗剤などの溶剤を使うと外装が変質したり、ショートを誘発して故障の原因となるため絶対に使わないでください。
- イヤホンマイクなどのケーブルは、軽く濡らせた布で拭いてください。汗はケーブルを劣化させる原因になります。

■電磁ノイズ

- インバーター回路を内蔵している電子機器及びハイブリッドカー、電気自動車の車内や周辺では電磁ノイズを受けて、正常に動作しないことがあります。
- ◎インバーターを搭載する代表的な機器
- LED照明機器 ●電磁調理器 ●給湯器 ●自動車の電子機器
- 太陽光発電装置

特定小電力の通信制限について

特定小電力トランシーバーの通信に関する制限事項について説明します。

3分制限(3分以上は連続で送信できません).....

10秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。チャンネルを独占させない機能です。

- 注意** 3分の通信制限により自動的に通信が停止した後は、約2秒たたないと送信できません。

キャリアセンス(受信中は送信できません).....

一定の強さ以上の信号を受信しているときは[PTT]キーを押しても送信できません。受信中に[PTT]キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。混信や妨害を与えないための機能です。

- 注意** セットモード「ビーブ音」をOFFに設定している場合、アラーム音は鳴りません。

付属品一覧

本製品には以下のものが付属しています。ご使用前に確認してください。

- 充電スタンド：EDC-182 □ACアダプター：EDC-139
- リチウムイオンバッテリーパック：EBP-80
- ベルトクリップ(装着済)：EBC-28(ネジ付) □簡易取扱説明書(本書)
- 保証書

注意

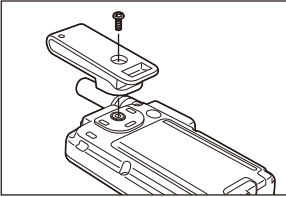
- 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートと一緒に保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効になりますのでご注意ください。
- 本機の保証は、本機と付属品にのみ適応されます。
- 弊社純正、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理となります。他の無線機メーカー製オプションが使えるかどうかは検証していません。他社製アクセサリに関することは直接その製品のメーカーにお問い合わせください。

ベルトクリップの取外し/取付け.....

ベルトクリップは取り付けた状態で梱包されています。ベルトクリップを外すときはドライバーでネジを反時計回りに回して外してください。(プラスドライバーNo2が必要です)定期的にネジにゆるみがないか点検してください。

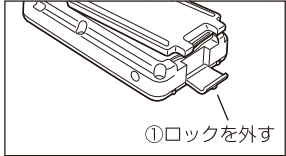
取付け後は本機を体の横や腰などに固定してください。また有線式オプションのケーブルは引っかからないように余分な長さを束ねてください。

- 注意** ●ベルトクリップは消耗品です。スペア部品を販売しておりますので、お買い求めの際は販売店にご相談ください。
- 標準付属品以外のネジを使うと本機が破損しますので、絶対に規格以外のネジは使わないでください。

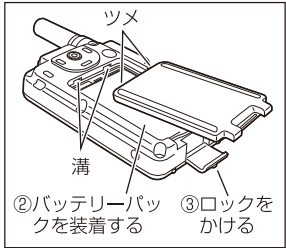


バッテリーパックの装着

- ①カバーを開ける
ロックを外してカバーを開けます。



- ②バッテリーパックを装着する

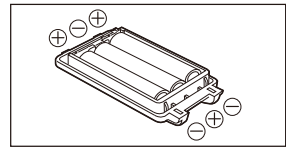


- ③カバーを閉める
ツメを合わせてカバーを閉め、ロックをかけます。きちんと閉まっていることを確認してください。

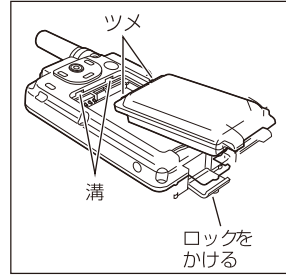
乾電池ケース(オプション)の装着

オプションの乾電池ケースEDH-38の使用方法を説明します。

- ①乾電池を取り付ける
市販の単四形アルカリ乾電池3本を乾電池ケース内側の「+」「-」表示にしたがってセットします。
※単四形充電電池は使用できません。



- ②乾電池ケースを装着する
乾電池ケースのツメを本体の溝に差し込んで装着し、ロックをかけます。きちんと閉まっていることを確認してください。



注意

- 乾電池に関するご注意
乾電池は使い方誤ると破裂、破損、液漏れの原因になります。次の注意事項を必ずお守りください。
- 使用した乾電池と新しい乾電池を混ぜて使用しない
- 3本とも同じ種類の乾電池を使用する
- 長時間使用しないときは乾電池ケースを本機から取り外しておく

バッテリーパック及び充電スタンド

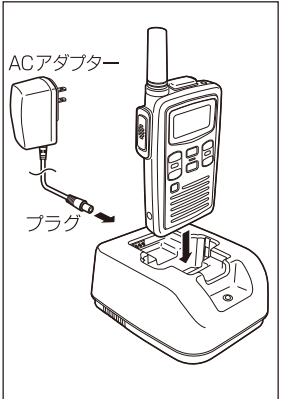
- リチウムイオンバッテリーパック：EBP-80(3.7V 980mAh)
- 充電スタンド：EDC-182
- ACアダプター：EDC-139

バッテリーパック(EBP-80)は出荷時には十分に充電されていません。お買い上げ後に満充電してからご使用ください。充電スタンド(EDC-182)の動作温度範囲は0℃～+40℃です。充電スタンドを使用して空のリチウムイオンバッテリーパックを満充電するのに要する時間は約3時間です。

■充電スタンド(EDC-182)の使用方法

- ①無線機本体にバッテリーパック(EBP-80)を装着します。
- ②ACアダプター(EDC-139)のプラグを充電スタンド背面のジャックに接続します。
- ③ACアダプターを家庭用コンセントAC100Vに接続します。
- ④本機の電源を切り、充電スタンドのポケットに差し込みます。充電が始まると赤ランプが点灯します。本機の電源を切って充電しないと正常に充電できず、最悪の場合は電池の劣化や故障の原因となります。
- ⑤充電が完了すると緑ランプが点灯します。

- メモ** 本機からバッテリーパックを取り外してバッテリーパックのみを充電することもできます。本機に装着した状態でうまく充電できない場合、バッテリーパック単体での充電をお試しください。



注意

- 指定以外のバッテリーパック、充電器、ACアダプターを使用しないでください。火災、破裂、発熱、感電、けが、故障の原因となります。
- バッテリーパックは消耗品です。使える時間が短くなった、ふくらんできた、充電時に以前より熱くなるなどは劣化が原因です。すぐにお買い換えください。
- 本機及び充電スタンドの充電端子はときどき乾いた布で拭いてください。汚れていると接触不良の原因になります。
- 長期間本機を使用しないときは、バッテリーパックを本機から取り外して、乾燥した冷暗所で保管してください。
- バッテリーパックを持ち運ぶ場合は、端子がショートしないようにビニール袋に入れるなど注意してください。端子がショートすると大電流が流れて、やけどや大火災を引き起こすおそれがあります。
- 指定の時間が経過しても充電を完了しないときは直ちに充電を中止してください。

注意

- 固い床に落としたり、壁にぶついたり等でバッテリーに強い衝撃を与えたときは新品に交換してください。バッテリー内部に小さな傷ができると、それが発火、発煙、破裂等の原因になります。

注意

- 電池消耗時の動作について
電池が消耗した状態で大きな音が鳴ると電池に負荷がかかり、以下のような動作をすることがありますが故障ではありません。バッテリーパックを充電するか、乾電池を交換してください。
- スピーカーから大きな音が鳴ったとき、ディスプレイ表示が消える
- バッテリーマークが空になってないのにディスプレイ表示が消える
- 正しく操作できないほど、誤動作する

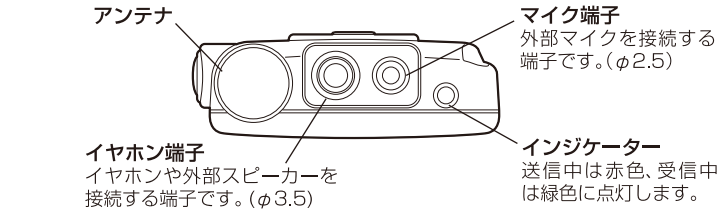
各部の名前とはたらき

■前面部

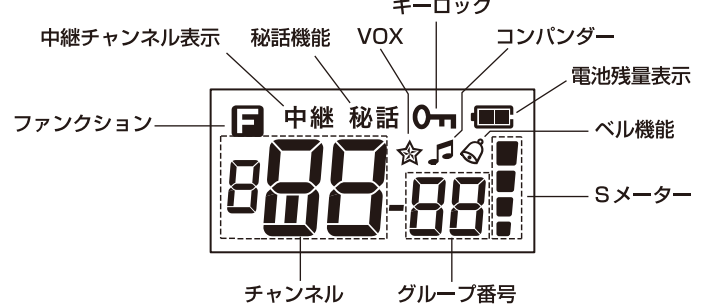
- アンテナ (ロング/ミドル/ショート)
アンテナは外れないようになっています。故障の原因になるためアンテナを持って本機をぶら下げたり、無理に力を加えたりしないでください。
- ディスプレイ
- CH(▲/▼)キー
▲でチャンネルを昇順に変更、▼で降順に変更します。
- GROUPキー
グルーブトーク機能を設定するときに使用します。
- スピーカー
薄型スピーカーが内蔵されています。ここから受信音が鳴ります。
- マイク
マイクと口元は約5cm離してください。シールやステッカーでふさがないように。声を拾わなくなります。
- PTT(送信)キー
送信するときに押します。
- FUNCキー
キーロックやセットモードに入るときに使用します。
- VOL(▲/▼)キー
音量を調整します。少しずつ音量を上げて適切な音になるよう調整してください。
- 電源キー
長押しで電源を入り/切りします。

※イラストはショートアンテナタイプです

■前面部



■ディスプレイ



基本操作

ここでは基本的な操作を簡単に記載しています。本書に記載していないセッ トモードや注意点などは詳細取扱説明書を参照ください。

■キー操作

「キーを押す」とはしっかり押した後、すぐに離すことを指します。「キーを長押し」とは約2秒間押し続けることを指します。

■電源を入れる

[電源]キーを長押しすると電源が入り、待受表示になります。電源を切る場合も同じ操作をします。

注意 電源を入れたときの「Er nG」表示はイヤホン断線検知の異常をお知らせしています。プラグを正しく挿入しているか確認し、直らないときは新品に交換してください。

■音量を調整する

VOL[▲]キーを押すと音量が上がり、[▼]キーを押すと音量が下がります。キーを押すと「ピッ」という音が聞こえますので、適切な音量に調整してください。音量は0～30の31段階で、初期値は15です。

交互通話

一人が話す音声を残り全員が受信します。複数の人が同時に送信することはできません。電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。本機または交互通話対応の特定小電力トランシーバーを2台以上使用します。

■チャンネルを合わせる

CH[▲]または[▼]キーを押して交互通話用チャンネルのL01～09、b01～11を選択します。通話したいトランシーバー全てを同じチャンネルに合わせます。キーを押し続けると連続してチャンネルが切り替わります。レジャー、ビジネス合わせて20チャンネルを搭載しています。

メモ CH[▲/▼]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ音量の目安となります。適切な音量に調整してください。

■受信する

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。インジゲーターが緑色に点灯し、ディスプレイのSメーターが信号の強さに応じて点灯します。

メモ ●本機にはテールノイズキャンセラー機能を搭載しており、受信終了時の「ザッ」というノイズが低減されています。(テールノイズキャンセラー機能を搭載した機種間の通話においてのみ有効)
●本機は受信待ち受け状態で約5秒間キー操作がないとバッテリーセーブ機能が動作します。本機能動作時に信号を受信すると通話の始めが途切れる場合がありますが、異常ではありません。

■送信する

信号を受信していないことを確認してから[PT T]キーを押します。インジゲーターが赤色に点灯し送信が始まります。[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。マイクと口元は約5cm離してください。一定の強さ以上の信号を受信しているときは警告音「プププ」が鳴り送信できません。[PTT]キーを離すと受信待受状態に戻ります。

中継通話

直接では電波の届かない相手と別売の中継器を介して交互に通話できます。電波の届くところにいれば人数に制限なく通話できます。中継器と本機または中継通話に対応した特定小電力トランシーバーを2台以上使用します。

■チャンネルを合わせる

CH[▲]または[▼]キーを押して中継通話用チャンネルのL10～18、b12～29を選択します。ディスプレイに「中継」が点灯します。

■受信する

信号を受信するとスピーカーから相手の声が聞こえます。インジゲーターが緑色に点灯し、ディスプレイのSメーターが信号の強さに応じて点灯します。

■送信する

信号を受信していないことを確認してから[PTT]キーを押します。インジゲーターが赤色に点灯し、送信が始まります。[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。

メモ お使いになる中継器の設定をご確認ください。中継器にグループトーク機能が設定されている場合は、本機にもグループトーク機能を設定してください。

注意 中継通話用チャンネルでは、子機同士の直接通話はできません。それぞれの機器が至近距離にあると誤動作することがあります。子機一中継器間、子機一子機間は10m以上離してください。

コールトーン機能

送信中にCH[▲]または[▼]キーを押すと、呼び出し音が鳴り相手を呼び出すことができます。[▲]と[▼]キーでは音色が異なります。

注意 セットモード「ビープ音」をOFFにしているとき、呼び出し音は鳴りません。

グループトーク機能

グループトーク機能を設定するとグループ番号が一致した場合にしか受信音を出しません。他のユーザーと混信しやすい場所で設定すると便利です。

■[GROUP]キーを押す

チャンネル表示の右側にグループ番号が点灯します。

■グループ番号を合わせる

[FUNC]キーを押しながらCH[▲]または[▼]キーを押して自分のグループのトランシーバーを全て同じ番号に合わせます。グループは01～50を選択できます。一般的に01番がよく使用されます。混信を避けるため01番以外に設定することをお勧めします。

■送信する

[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。チャンネルとグループ番号が一致している人とのみ通話ができます。ただしグループトーク機能を設定していない人にはこちらの声が聞こえます。

キーロック機能

キーロックをしておくと誤動作を防止できます。

■簡易キーロック(音量変更可能)

[FUNC]キーを長押しします。「Loc1」が点滅した後、「0」が点灯します。解除するには同じキー操作をします。

■通常キーロック(音量変更不可)

[FUNC]キーと[GROUP]キーを同時に長押しします。「Loc2」が点滅した後、「0」が点灯します。解除するには同じキー操作をします。

減電池表示

電池残量が少なくなると電池残量表示が「」表示になり、電池の交換時期が近づいていることをお知らせします。さらに残量が少なくなると「」表示になります。さらに残量が少なくなった場合はバッテリーパックを充電するか新しい電池と交換してください。

メモ 「電池が入らない」「ディスプレイ表示が消える」「ハウリング」「ON/OFFを繰り返す」などの症状が出た場合も電池の消耗が考えられるため、バッテリーパックを充電するか新しい電池と交換してください。セッ トモードの電池選択項目が適正でないと正しいタイミングで電池交換時期を表示しません。

セットモード項目

各種機能を用途や好みに合わせてカスタマイズすることができます。セットモードの詳しい説明は詳細取扱説明書を参照ください。

■セットモードにする

- [FUNC]キーを押しながら[GROUP]キーを押します。セットモードに入り項目が表示されます。
- [GROUP]キーを押すごとに項目が切り替わります。[FUNC]キーを押すと前項目に戻ります。
- CH[▲]または[▼]キーを押して設定値を変更します。
- [PTT]キーを押して設定を完了します。

注意 [FUNC]キーを押し始めたらすぐに[GROUP]キーを短く押してください。[FUNC]キーを長押しするまたは[FUNC]と[GROUP]キーを同時に長押しするとキーロックする操作になりますのでご注意ください。

No.	項目	機能説明	選択項目	初期値
1	bt	電池選択(リチウムイオン/アルカリ)	Li/AL	Li
2	CP	コンバンダー(雑音低減)	oF/on	oF
3	vo	VOX(音声検出送信)	oF/Lo/Hi	oF
4	SC	秘話	oF/on	oF
5	bP	ビープ音(キー操作音、各種アラーム音)	oF/1～5	1
6	EP	エンドビー(送信終了音)	oF/on/pp	oF
7	bL	ベル(呼び出しお知らせ)	oF/on	oF
8	LP	ランプ	oF/5/on	5(秒)
9	PH	PTTホールド(送信保持)	oF/on	oF
10	Pt	PTTオン/オフ(送信禁止)	oF/on	on
11	At	中継継続手順	oF/1/2	(on)2
12	Er	イヤホン断線検知	oF/on	on
13	Cb	コールバック	oF/on	oF
14	Po	送信出力(Lo:1mW/Hi:10mW)	Lo/Hi	Hi
15	EmG	緊急通報機能	oF/on	oF

リセット

設定が分からなくなったときに初期化します。

[FUNC]キーを押しながら電源を入れます。ディスプレイが全点灯中に[FUNC]キーを離すと、「L01」が表示され工場出荷状態に戻ります。

ACSH(アクシュ)モード

すでに使用している無線機(交互通話は他社製も含む)のチャンネルとグループ番号をスキャンして、本機に同じ内容を自動設定する機能です。交互通話・中継通話に対応しています。交互通話の場合は、あらかじめ通話モードを設定したマスター機と本機が必要です。中継通話の場合は、あらかじめ中継通話に設定したマスター機と中継器と本機が必要です。(この機能はM1****以降の製造番号のDJ-CH272のみ搭載されています)

■設定方法

- マスター機と任意の本機を用意します。誤判定を防ぐために近距離で作業してください。複数台同時に設定が可能です。
- 本機の電源を切ります。
- ディスプレイに「ACSH」と表示されるまで「GROUP」キーを押し続けながら電源を入れます。
- 表示後、マスター機を送信します。
- 数秒から最長で2分程度待ちます。マスター機の電波を受信すると「ピピ」音とともにディスプレイに「Ac-rn」と表示されます。
- 設定が終わると「ブルル」音とともに、ディスプレイに「oo oo」が表示後、自動的に再起動します。その後正しく設定されているか通話確認します。
- マスター機の送信を停止します。

注意 ●自動設定中は電源を切らないでください。自動設定せずに停止します。
●本機が電波を検出しているときは、マスター機のマイクから音声が入らないようご注意ください。電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
●グループ番号の検出中にトーン周波数が近いものは動作が不安定になったり、誤判定したりすることがあります。(例：01番：67Hz、39番：69.3Hz)その場合グループ番号を01～38番の範囲で設定してからご使用ください。
●自動設定後はキーロックがオンします。手動でチャンネルやグループ番号を変更したい場合、簡易キーロックをオフにします。

その他の機能

詳しい操作方法や本書には記載していない拡張機能については詳細取扱説明書を参照ください。

■エアクローン(M1****以降の製造番号のDJ-CH272同士でないでクローンできません)

設定が済んだDJ-CH272(マスター機)の設定データを無線で、複数の本機(子機)に一度にクローンできます。子機はどんな設定でもマスター機のデータにクローンできます。

■デュアルオペレーションモード

メイン/サブの2つのチャンネルを1秒ごとに交互受信し、そのどちらも通話できるモードです。

■リモコンモード

本機をリモコンとして弊社製中継器のチャンネルなどを遠隔操作できる機能です。

故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
電源が入らない	電池の入れ方が間違っている 電池が消耗している	電池を正しく取付けてください 新しい電池に交換するか充電電池を充電してください
音が出ない	音量が低すぎる	適切な音量に調整してください
受信できない	相手とチャンネルが違う 相手と距離が離れ過ぎている	同じチャンネルにしてください 通信距離を目安に送信してください
送信できない	信号を受信している 3分通信制限を超過している	信号がなくなってから送信してください [PTT]キーを離して2秒経過後に送信してください
キー操作できない	キーロックされている	キーロックを解除してください
充電できない	端子が汚れている 充電電池が劣化している	端子の汚れをふき取ってください 新しい充電電池に交換してください

生産終了品に対する保守年限

生産終了後も5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守できなくなることがありますのでご了承ください。

オプション一覧

EBP-80	リチウムイオンバッテリーバック 3.7V980mAh(スベア)	■EME-29A ■EME-57A	イヤホンマイク(耳かけ型) イヤホンマイク(カナル型耳かけ)
EDC-182	充電スタンド (スベア)	■EME-39A	咽喉イヤホンマイク
EDC-139	ACアダプター(スベア)	■EME-46A	ヘッドセット
ESC-55	ソフトケース	■EME-53A(※1)	ヘルメット用ヘッドセット
EDH-38	乾電池ケース	EME-522A	イヤホンマイク(オープンエア型)
EME-6	ストレートコードイヤホン(オープンエア型)	EME-652CA	イヤホンマイク(カナル型)
EME-26	カーコードイヤホン(オープンエア型)	EME-652MA	イヤホンマイク(耳かけ型)
EME-50	ストレートコードイヤホン(耳かけ型)	EME-762MA	イヤホンマイク(オープンエア型)
■EME-21A	イヤホンマイク(カナル型 グレー)	EME-762PA	イヤホンマイク(オープンエア型)
■EME-21AB	イヤホンマイク(カナル型 ブラック)	EMS-59(※2)	スピーカーマイク

(※1) バイク用ヘルメットには使用できません。
(※2) スピーカーマイクは、PTTホールド、VOX機能が使用できません。

■ 壊れにくく、修理ができる業務用です。

定格

送受信周波数	レジャーチャンネル	421.8125～421.9125MHz(受信)
		422.2000～422.3000MHz
		440.2625～440.3625MHz(送信)
	ビジネスチャンネル	421.5750～421.7875MHz(受信) 422.0500～422.1750MHz 440.0250～440.2375MHz(送信)
周波数制御	421.8000MHz(受信)、422.1875MHz、440.2500MHz(送信)	
電波形式	F3E(FM)/F1D(FSK)	
送信出力	10mW/1mW	
受信感度	－14dBu(12dB SINAD)	
音声出力	100mW以上	
通信方式	単信、半復信	
定格電圧	DC3.7V/4.5V	
動作温度範囲	－10℃～+50℃(但し充電は0℃～+40℃)	
寸法	55(W)×93.8(H)×18.8(D)mm (突起物除く) アンテナ長さ ロング150mm/ミドル72mm/ショート36mm	
質量	ロングアンテナ装着時：約110g(バッテリーバック含む) ショート、ミドルアンテナ装着時：約106g(バッテリーバック含む)	

仕様、定格は予告なく変更することがあります。本書の説明用イラストは実物と実態や形状が異なったり、一部の商品を表示している場合があります。本書の内容を無断転載することは禁止されています。乱丁、落丁はお取り替えいたします。技術基準上の理由から、アンテナの長さを変更することはできません。同じ長さのアンテナの修理交換はサービスセンターで承ります。